

【お詫び】

コ・メディカル形態機能学会第 20 回学術集会・総会の学術集会予稿集におきまして、田中貴士先生のご演題（演題番号 5. 小胞体ストレス応答因子 ATF6 β の欠損はストレスホルモン依存的な不安症を呈する）の抄録内容（9 ページ）に誤りがありました。

深くお詫びするとともに、下記の抄録に訂正させていただきます。

5. 小胞体ストレス応答因子 ATF6 β の欠損はストレスホルモン依存的な不安症を呈する

○田中貴士^{1,2)}、Dinh Thi Nguyen³⁾、Nichakarn Kwankaew³⁾、加藤伸郎⁴⁾、森和俊⁵⁾、堀修³⁾

- 1) 熊本保健科学大学 保健科学部 リハビリテーション学科
- 2) 金沢医科大学 医学部 解剖学 II
- 3) 金沢大学大学院 医薬保健学総合研究科 神経解剖学
- 4) 金沢医科大学 医学部 生理学 I
- 5) 京都大学大学院 理学研究科 生物物理学

小胞体ストレス応答は、細胞内のホメオスタシスに重要な役割を果たしている。小胞体ストレス応答の一翼を担う activated translational factor (ATF) 6 β は、脳内の神経に広く発現し、ストレス下での神経の生存を促している。しかし、ATF 6 β の生理学的な機能は未だ明らかではないため、ATF 6 β 欠損マウスを用いて、網羅的な行動解析およびタンパク・核酸解析、組織学的解析を実施した。ATF 6 β 欠損マウスには、不安様行動とともに、ストレス状況下における顕著な活動の亢進が観察された。前頭前野と視床下部において、副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン (CRH) が増加し、血清中のコルチコステロン濃度の増加が認められた。そこで、CRH のアンタゴニストを投与したところ、不安様行動が改善したことから、ATF 6 β 欠損マウスの不安様行動は CRH 依存的であることが示された。本研究によって、神経細胞内の ATF 6 β が、精神障害の一つである不安症を制御していることが明らかになった。